

夢洲における工事期間中の物流交通対策について

令和5年10月20日
大阪港湾局

現状（夢洲におけるコンテナ車両渋滞状況）

- ・夢洲でのコンテナ車両の滞留について、既設の車両待機場200台分に加え、令和3年度には約240台分の追加整備を実施したことにより、一定効果は見られたが、年末年始や台風によりターミナル内にコンテナが滞留した場合などの特異日においては、幹線道路上にコンテナ車両の滞留が発生。（R5.1.19：約140台、R5.8.16：約160台）
- ・また、通常期においても、混雑日には、昼時間帯に幹線道路上に10～20台程度の滞留が見られる。



夢洲における物流交通の課題と対応、効果

課題

会場周辺

ターミナルに來訪する
コンテナ車両の道路上待機による
工事車両の通行への妨げ

対応

道路上待機車両の解消

具体策

①車両待機場場の追加整備

②荷捌き地の拡張（ゲート増設）

③CONPASの導入

④ターミナルゲート時間延長

夢洲外から会場

工事車両の
交通需要追加に伴う
道路容量不足の可能性

道路容量の拡大

夢洲発生集中
交通量の削減

・此花大橋、夢舞大橋、
幹線道路の拡幅
・夢洲北高架橋などの
主要交差点の立体交
差化

⑤咲洲シフト

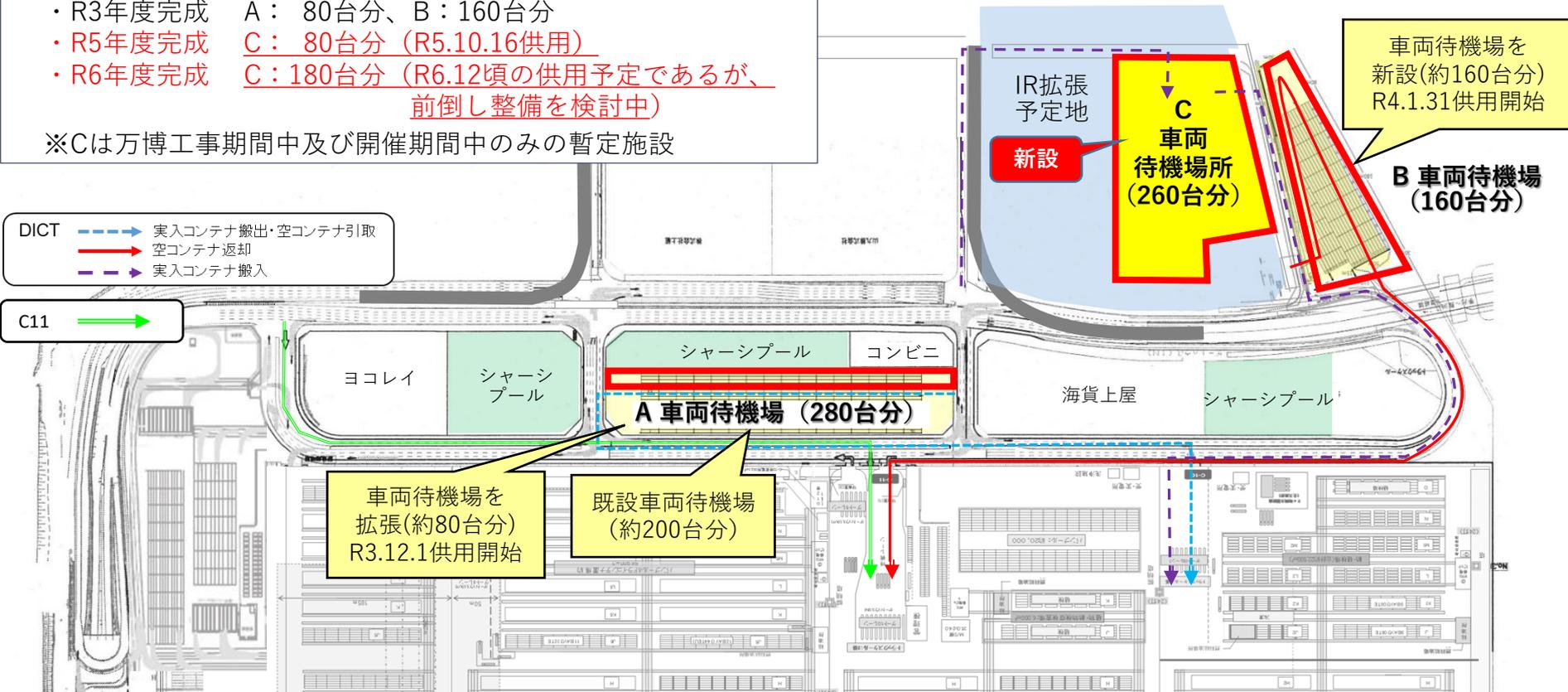
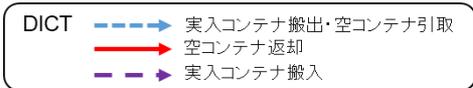
①車両待機場の整備

- ・夢洲において、令和3年度に約240台分を追加整備したことにより、幹線道路上のコンテナ車両の滞留列は一定解消したが、万博工事期間中に不測の事態が生じた場合にも対応できるよう、コンテナ車両の待機場所を追加で約260台分確保する。
- ・台風によるゲートクローズ明けなど特異日には最大で約160台の滞留が幹線道路上に発生しているが、260台分の車両待機場所を追加整備することにより、待機場所内に収まる見通し。

■車両待機場 700台分（既設200台分＋追加整備500台分）

- ・既設(対策前) A：200台分
- ・R3年度完成 A：80台分、B：160台分
- ・R5年度完成 C：80台分（R5.10.16供用）
- ・R6年度完成 C：180台分（R6.12頃の供用予定であるが、前倒し整備を検討中）

※Cは万博工事期間中及び開催期間中のみの暫定施設

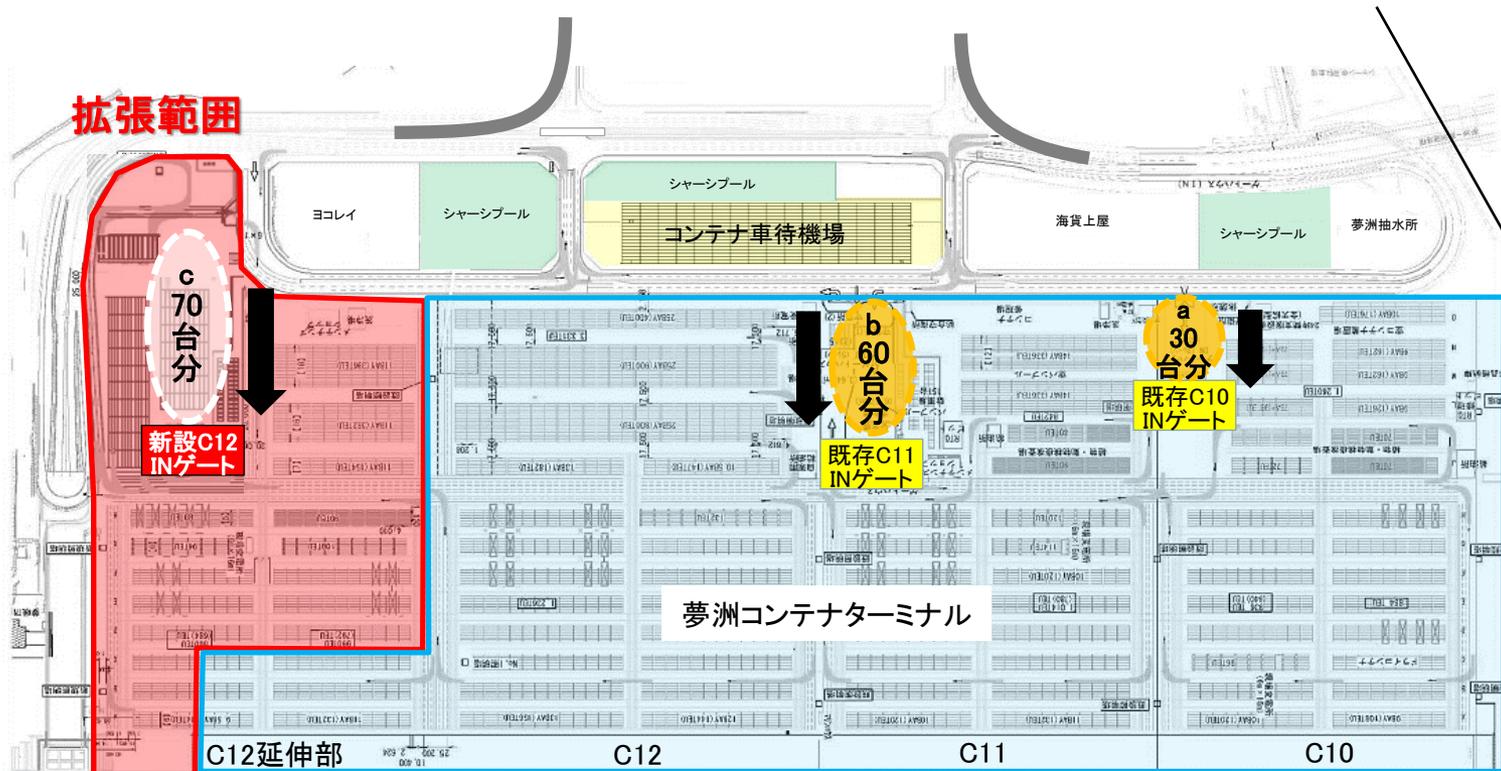


②夢洲コンテナターミナルの荷捌き地の拡張(ゲート増設)

- 国土交通省、阪神国際港湾(株)が事業実施中。
 - ➡荷捌き地の拡張は令和5年度末完成予定。
増設ゲートは令和6年度中の運用開始予定。※今後、ターミナル事業者へ早期整備について要請
- 増設ゲート前にコンテナ車両の待機レーン(70台分)を広く確保するとともに、コンテナ取扱能力やゲート処理能力の向上により道路上の滞留解消に寄与。

※INゲート前待機レーン：90台分 ⇒ 160台分(70台分増) (当初、aは撤去予定であったが、残置に変更(a残置+c整備=100台分))

※INゲート数：17ゲート ⇒ 22ゲート(5ゲート増) ※1時間当たり120台削減



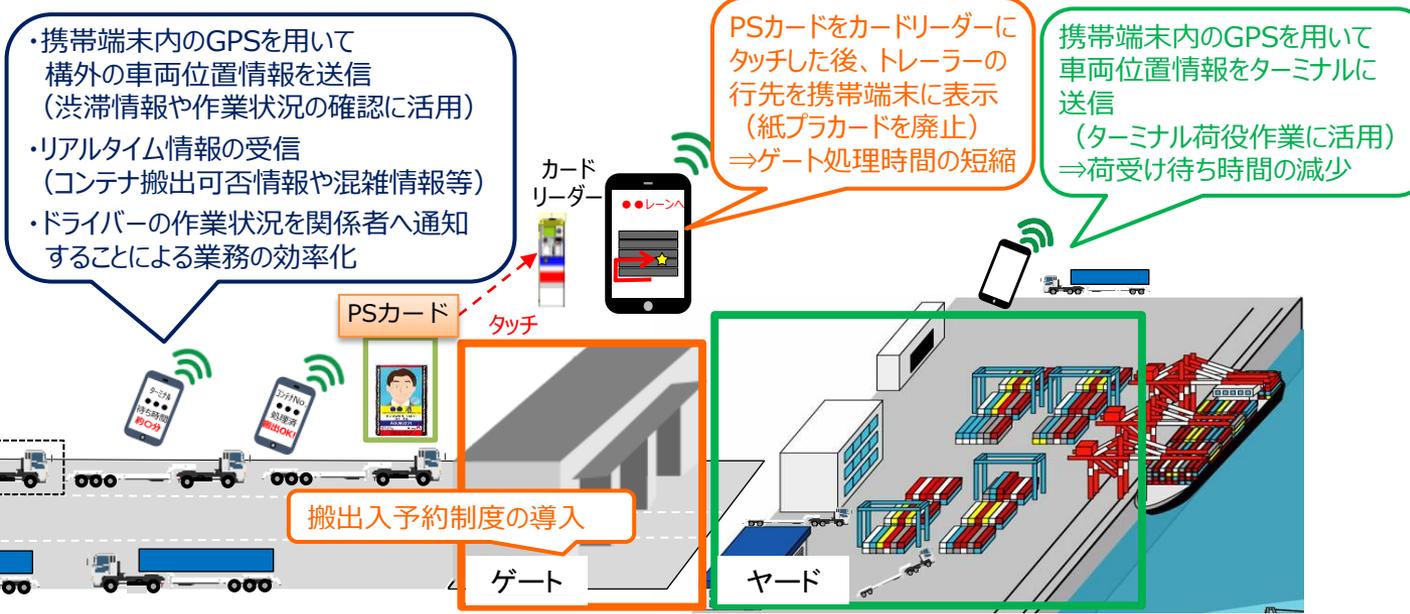
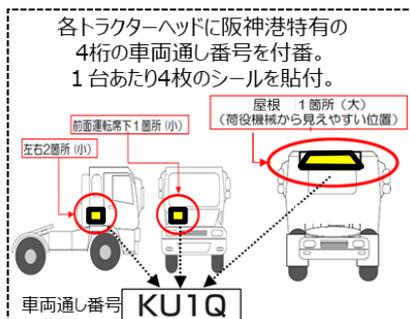
③新・港湾情報システム「CONPAS」の導入

- ・コンテナターミナルのゲート前混雑の解消等を図るため、国が開発した「CONPAS」の大阪港への導入に向けて、国土交通省や阪神国際港湾(株)と連携して取組み中。
- ・主な効果として、PSカード※1や専用携帯端末※2等を利用した、ゲート処理時間の短縮やターミナル荷役作業の効率化による荷受け待ち時間の減少が見込まれる。
- ・引き続き、関係者と連携し、令和5年度中の本格運用を目指す。

※1 国土交通省が発行する身分証明書(ポートセキュリティカード)
 ※2 大阪港を利用している車両全車に貸与できるよう準備済み

【イメージ図】

輸入コンテナ搬出の場合



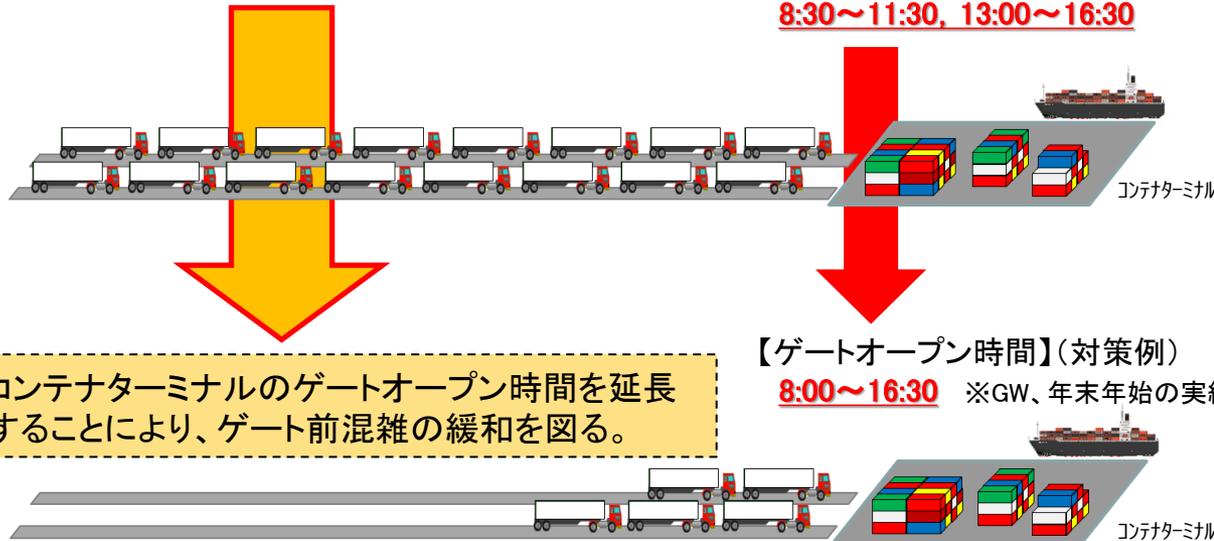
【試験運用の実施状況】

- ・令和4年1月～令和5年8月に5回の試験運用を実施
- ・第2回試験運用では、ゲート受付時の処理時間60秒削減(69秒→9秒)を確認
- ・第5回試験運用では、輸出・輸入の両方を対象にした試験運用を実施

④ターミナルゲート時間延長

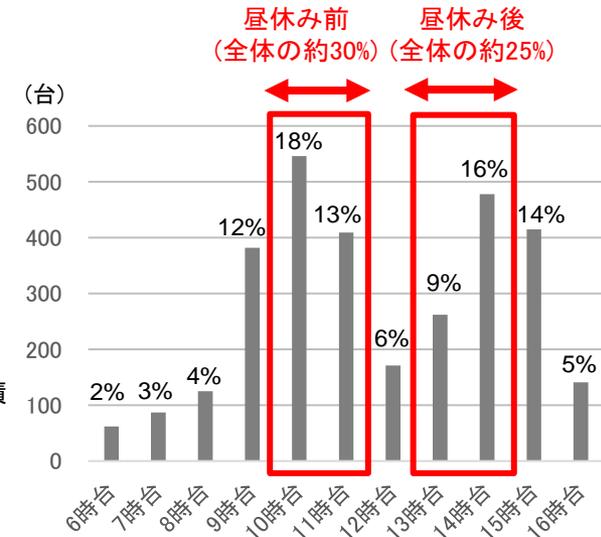
- ・早朝時間帯等へコンテナ車両のターミナル来場を分散させるため、ターミナルゲート時間延長の実施を検討中。
- ・博覧会協会による工事期間中の交通需要予測等も踏まえ、実施期間や実施時間帯について、港運事業者など関係者と調整し、必要に応じて実施していく。

・コンテナターミナル前において、ゲート処理待ちの搬出入車両が道路上に滞留



・コンテナターミナルのゲートオープン時間を延長することにより、ゲート前混雑の緩和を図る。

時間帯別コンテナ車両来場台数
(令和2年9月29日 夢洲コンテナターミナル)



【これまでの実施実績】

■G20大阪サミット2019の期間

- ・令和元年6月(12日間)、全ターミナルにおいて、夜間等を実施(平日/16:30～20:00、土曜/13:00～16:30)

■ゴールデンウィークや年末年始の大型連休前後の混雑期間

- ・毎年、一部ターミナルにおいて、早朝、昼休みに実施(平日/8:00～8:30、11:30～13:00、土曜/8:00～8:30)
- 令和4年GW明けについて、8:30時点の待機台数が約230台から約40台に削減(▲190台)(夢洲、6日間平均)

⑤ 咲洲へシフト(空コンテナ返却場所一時移転)

- ・博覧会協会による工事期間中の交通需要予測等も踏まえ、空コンテナ返却場所シフトについて、港運事業者など関係者と調整し、想定を上回る工事車両等の集中といった非常事態が発生・予測される場合など必要に応じて実施していく。

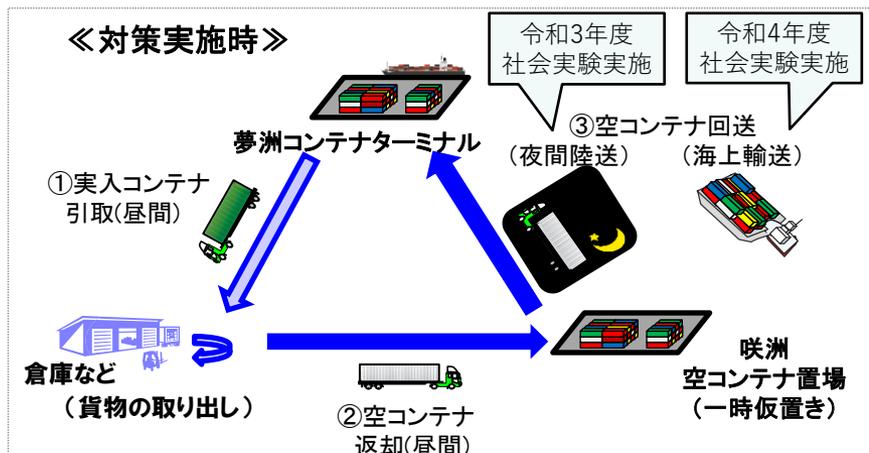
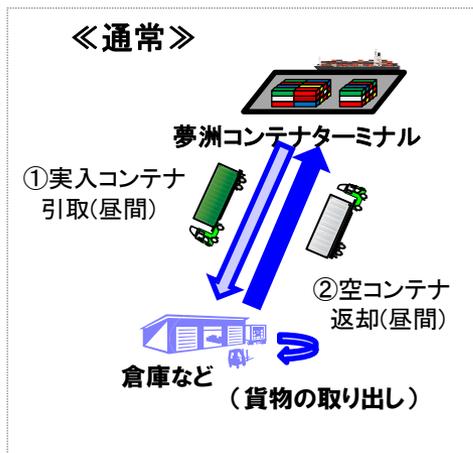
【社会実験実施状況】

- ・令和3年10月に夜間陸送による社会実験を実施。
- ・令和4年11～12月に海上輸送による社会実験を実施。

実施年度	咲洲側返却場所	実施日数・本数	回送方法
R3	C1西 荷捌き地	12日間 1,070本	夜間陸送
R4	その1 C1 ターミナル	16日間 400本	海上輸送 (一部、陸送)
	その2 C6,7 ターミナル	16日間 432本	海上輸送



【イメージ図】



《空コンテナ海上輸送状況》

万博工事期間中の物流交通対策(案)

今後、増加が見込まれる物流車両と万博工事車両の輻輳が懸念されることから、夢洲における交通円滑化に向けた物流交通対策を実施する。

①車両待機場の整備

(500台分追加整備し、700台分確保)

- ・240台分 **済**
- ・260台分(暫定) 令和5年10月 80台分供用
令和6年12月 180台分完成予定



③CONPAS(※)の導入

(ゲート処理時間の短縮等)

- ・令和3~4年度に、試験運用を4回実施
 - ・令和5年7~8月に輸出・輸入の両方を対象にした試験運用を実施
 - ・令和5年度中の本格運用をめざす
- (※) Container Fast Passの略

⑤咲洲ヘシフト

(空コンテナ返却場所一時移転)

- ・令和3年10月に夜間陸送による社会実験を実施
- ・令和4年11~12月に海上運搬による社会実験を実施

④ターミナルゲート時間延長

(30分で最大200台分散)



(通常) 平日: 8:30~11:30, 13:00~16:30
土曜: 8:30~11:30

②荷捌き地の拡張(ゲート増設)

(ゲート前待機スペース100台分確保)

(ゲート増設(17→22ゲート)により、1時間当たり120台削減)

- ・荷捌き地の拡張は、令和5年度末に完成予定
- ・増設ゲートは、令和6年度中に運用開始予定



⑤咲洲ヘシフト

(空コンテナ返却場所一時移転)

- ・令和4年11~12月に海上運搬による社会実験を実施
- ・令和5年1月にC6,7ガントリークレーン製作設置工事に着手

※④ターミナルゲート時間延長、⑤咲洲ヘシフトは、夢洲周辺交通のピーク時を対象として実施に向けて調整

(写真はイメージ)

物流交通対策の概略工程(案)

**万博
開催**
R7.4.13~10.13

項目	概要	2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025
		R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7
①車両待機場の整備	夢洲での追加整備		詳細設計	工事	R4.1.31~ 供用開始	設計	工事	R5.10.16~ 供用開始
	咲洲での追加整備		概略設計	詳細設計	工事		設計	工事
②荷捌き地の拡張 (ゲート増設)	C12コンテナターミナル拡張※、ゲート増設 (※ 増設ゲート周辺部分)		検討・協議等	詳細設計	コンテナターミナル拡張工事		増設ゲート工事	システム 導入
③CONPASの導入	新・港湾情報システム(CONPAS)	概略・詳細設計、 試験期間中の改修			試験運用等	順次 導入		本格 運用
④ターミナルゲート時間延長	早朝等ゲートオープン時間の延長	社会実験	検討・協議等				実施	実施
⑤咲洲ヘシフト	空コンテナ返却場所一時移転	検討・協議等	詳細設計	ガントリークレーン整備				
			社会 実験	社会 実験	社会 実験		実施	実施

※④ターミナルゲート時間延長、⑤咲洲ヘシフトは、夢洲周辺交通のピーク時を対象として実施に向けて調整